

## 会議録

会議の名称	第5回 西東京市都市と農業が共生するまちづくり推進委員会
開催日時	平成23年8月25日 17時00分から18時50分まで
開催場所	保谷庁舎 4階 第3会議室
出席者	委員：伊藤会長、貫井副会長、石黒委員、長谷川委員、本橋英次委員、富岡委員、本橋正明委員、柴田委員、山田委員、高井委員、櫻井委員 事務局：宮坂主幹、稲船主事 オブザーバー：東京都農業振興事務所 小澤農政係長 宇田川委員は所用により欠席
議題	1. 開会 2. 委員自己紹介 3. 議題 (1) 実施計画等報告 (2) 今年度スケジュール (3) その他
会議資料の名称	資料1 第5回西東京市都市と農業が共生するまちづくり推進委員会会議資料 平成23年度事業の実施スケジュールと進め方（案） 資料2 第5回西東京市都市と農業が共生するまちづくり推進委員会会議資料 農のアカデミー体験実習農園の実施方針（案） 資料3 西東京市産業振興マスタープラン概要版
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>1. 開会</p> <p>○会長：</p> <p>    議題に入る前に、本日は宇田川委員が所用の為欠席。</p> <p>    今年度はJA東京みらいの大木委員の異動に伴い、本橋正明委員へ変更になった。また、昨年度の行政委員の梅澤委員、臼井委員に変わり山田委員、高井委員へと変更になった。まずは今年度より参加する3名の委員に自己紹介をしていただきたいと思います。</p>	

## 2. 委員自己紹介

### ○本橋（正）委員：

大木の後任のJA東京みらい経済指導課の本橋です。7月に移動してきました。皆さんと色々と考えて議論をしていきたいといます。よろしくお願いします。

### ○山田委員：

都市整備部まちづくり総合調整特命主幹の山田です。3月までは6年間市民課におりました。この4月からひばりが丘の北口地区のまちづくりに携わっております。長年の懸案事項であったが、今年度ようやく地区計画の策定にかかれそうな状況です。また、東大生態調和農学機構の地区計画にも携わる予定です。よろしくお願いします。

### ○高井委員：

みどり環境部みどり公園課長をしております。主に公園・緑地の維持管理を行っております。よろしくお願いします。

### ○会長：

それでは、昨年度より引き続きの委員の皆様にも簡単に一言ずつ自己紹介をお願いします。

### ○石黒委員：

公募市民の石黒です。ボランティアとして近隣農家のお手伝いをしています。よろしくお願いします。

### ○長谷川委員：

公募市民の長谷川です。よろしくお願いします。

### ○富岡委員：

中町で体験農園を主宰しています。よろしくお願いします。

### ○本橋（英）委員：

旧田無市で野菜農家をしています。よろしくお願いします。

### ○柴田委員：

東京都農業振興事務所農務課長をしています。本事業の担当をしています。よろしくお願いします。

### ○櫻井委員：

西東京市教育部教育企画課長です。教育委員会の運営等を主に行っています。

### ○貫井副会長：

今年の1月まで農業委員会の会長をしておりました。中町で梨の栽培をしています。よろしくお願いします。

○伊藤会長：

武蔵野大学環境学部環境学科で建築とまちづくりについて教えています。農業に関しては特に専門ではないが、都市、まちづくりという観点から役に立てればと思います。

### 3. 議題

#### (1) 実施計画中間報告

○事務局：

配布資料の確認。

実施計画について説明。

都市農業フォーラムについて報告。

○会長：

不明点はないですか。

○委員一同：

特になし。

#### (2) 今年度のスケジュールについて

○事務局：

資料-1 平成23年度事業の実施スケジュールと進め方（案）について説明。

今年度開催予定の農業フォーラムについては、講師、パネラー、トピック等について何かご提案頂ける場合は、10月14日（金曜日）までに事務局へ知らせてほしい。

資料-2 農のアカデミー体験実習農園の実施方針（案）について説明。

○会長：

資料-2では、事業内容について具体的な提案が出されているかと思う。資料-1の9ページの本事業全体のスケジュールからも分るように、ハードの環境整備に関しては、農業者が主体的に係ることで進められるかと思う。ソフト事業については、「めぐみちゃんマーケット」、「めぐみちゃん弁当・メニュー」、「農のアカデミー」の3つの事業を発展的に検討する必要がある、専門的な視点や意見を取り入れる必要があるかと思う。例えばめぐみちゃんマーケットは、物を販売するということになるので、商工会の力が欠かすことができない。一方で、農家から生産物を集約して、マーケットに農産物を提供してもらわなければならない。委員の方々にはそれぞれの立場から何か意見があればお願いしたい。

○委員：

生産に関して言えば、めぐみちゃんマーケットで販売する野菜をどれだけ集められるのか、取り組みに賛同してもらえる農家をどれだけ集められるかがポイントとなるのではないか。

○会長：

現在、西東京市内で市内産の農産物を集約して販売している箇所はどのくらいあるのか。

○事務局：

JA東京あぐりとJA東京みらいでは、それぞれ複数の農家が集まって定期的に農産物を販売する取り組みを行っている。また、天神山のスーパーや西友、丸正等でも市内産農産物の直売コーナーを設けている。

○会長：

農家を個別に回ってマーケットへの協力をお願いして、事業を開始するのではなく、JAのような販売に関して取りまとめ経験のあるところが中心となって事業を進める方が適切なのではないか。

○委員：

富岡委員の言っていたように、いつ、何を、いくつ出荷するのかが決まっていないと、農家としても協力をするのも難しいのではないか。JA東京みらいでは、毎月15日に感謝デーを開催しており、農家からは余った農産物を提供してもらっている。マーケットの為に農家にわざわざ農産物を栽培してもらうことになると、畑の面積の制限や手間等の問題があるのではないか。出荷作業も農家にとっては大変な手間になるかと思う。また、マーケットに提供する農家の数が多ければ多いで、農家の利益は減るのではないか。

○会長：

JA東京みらいで行っている感謝デーには、どのくらいの数の農家が係っているのか。

○委員：

時期によって違うが、通常は10～15軒程度、多い時で20～30軒程。

○会長：

事務局としては、現時点ではマーケットの開催場所や頻度はどのように想定しているのか。

○事務局：

将来的には月1回程度できればと思うが、まずはプレ的に各エリアの拠点整備が終わったところから順次拠点で開催することを考えている。また、各エリアの周辺の農家へマーケットへの協力をお願いしたいと考えている。

○会長：

今年度整備が完了する予定の（仮称）花摘みの丘農園は個人の所有地となるので、マーケットの開催の頻度が増えると、土地所有者の負担も増えるのではないか。拠点ではなく、例えば市内の公共施設（市役所、公園や学校）をマーケットの開催場所として活用することにはどうか。

○委員：

現在、田無庁舎市民広場とエコプラザ西東京で個人のリサイクル品の販売を行う「り

さいくる市」を月ごとに交互開催している。りさいくる市の開催に合わせて、地元の農家の方々が農産物の販売を行っている。

○委員：

めぐみちゃんマーケットを公園で開催することについては、開催が難しい公園もあるかと思う。また、マーケットの主催者が誰になるのか、また営利目的の開催かどうかということ等も含めて、一概に公園での開催が出来るとは簡単には言えない。

○会長：

マーケット開催の目的は、正に農家の利益を生み出すことになるので、営利目的となる。平成24年度は田無駅南部エリアの拠点整備を実施する予定となっているが、多摩湖自転車道路は利用者が大変多いのでマーケットの場所として活用出来ないか等思っているのだが、今後行政委員へは相談やアドバイスを頂きたいと思う。

○委員：

どのように回答をすれば良いのか悩んでいるのだが、都市計画的にも今この場で即答するのは難しいかと思う。

○会長：

めぐみちゃん弁当・メニューについても、飲食や販売の専門の人に部会には参加してもらう必要がある。地場製品の取り扱いに取り組んでいる人に係ってもらうことが、この事業では大事なのではないか。また、食育という点について考えると、学校給食のことなども検討の余地があるのかもしれない。

○委員：

商業関係の人達との交流やイベントを開催することで話題性が生まれるので、弁当・メニューの立ち上げを告知すれば、周知することが出来、盛り上がるのではないか。

○副会長：

めぐみちゃん弁当・メニューに関しては、市内の飲食業の人へ呼びかけを行い、協力を得る方が良い。また、お弁当のレシピコンテスト等を開催して、話題づくりを行ってはどうか。地場産のものを使用して作ったことをPRしていき、どれか一つのものに決めてしまうのではなく、複数のものを総称して「めぐみちゃんブランド」としてはどうか。

めぐみちゃんマーケットに関しては、遠方からのお客さんも有難いが、何より近隣の市民にしっかりPRをして周知することが大事なのではないか。農産物の提供をお願いする農家には、出品する品に制限があると農家の負担になってしまうので、検討する必要がある。また、マーケット開催場所に比較的近い農家を中心にして参加・協力をしてもらってはどうか。また、JAの委員にも是非ともめぐみちゃんマーケット部会、めぐみちゃん弁当・メニュー部会においては協力をお願いしたい。

○委員：

めぐみちゃんマーケットの開催場所は、各エリアの拠点施設のみとなるのか。

○会長：

移動式のマーケットがイメージとしては検討されていたかと思う。

○副会長：

めぐみちゃんマーケットを定着させる為の足がかりとしては、まず各地域拠点からスタートさせて、その後駅前等市内に派生させて広めていけば良いのではないか。

○委員：

めぐみちゃんマーケットを地域の拠点で開催するとしても、スポット的な開催では市民に周知されにくい。マーケットを行うのであれば、期間を決めて毎日でも行った方が良いのではないか。市民にとっては、行ってもマーケットがやっていなかった、マーケットに行っても売っていなかったという状態では客は定着しない。売れるマーケットというものを考えていかなければならない。

○委員：

一消費者の立場から言うと、農産物のマーケットならば今日使う野菜が何か足りないという場合に利用するかと思う。マーケットの開催頻度が月に1回程度ということだと、普段の生活の中で利用することは考えにくい。そのくらいの頻度ならば、スーパーで野菜を購入してしまう。ボランティアで手伝いに行っている農家では、毎週水曜日にJAへ野菜を提供しており、その他学校給食、りさいくる市、自宅の直売の順で栽培した野菜をさばいている。これ以外にマーケットへの供給となると、農家へは大変な負担になるのではないか。また、野菜は天候にも左右されるし、採れ具合はとても不安定なので、難しいことではないか。

○会長：

ソフト事業の部会について、事務局としては何か具体的なイメージを持っているのか。

○事務局：

先程、ご指摘のあったようにマーケットに関しては、農家が安定的な供給が出来るかどうかポイントになるかと思う。マーケット、弁当・メニューの両部会には是非JAの委員に参加していただきたい。また、市民の参加も希望しているので、公募委員の石黒委員と長谷川委員にも部会への参加を是非とも検討して頂きたい。

○会長：

JA東京みらいの本橋委員には、マーケットもしくは弁当・メニュー部会への参加を是非ともお願いしたい。どちらの部会に参加するかは、別途事務局と相談して頂きたい。

○委員：

私は、めぐみちゃん弁当・メニュー部会へ参加したいと思う。

○会長：

めぐみちゃんマーケットの部会については、農産物を提供する農家の参加が必要不可欠となる。また、地域拠点の協力農家にも部会への参加をお願いしてはどうか。

○事務局：

地域拠点の協力農家に関しては、拠点整備で手一杯かと思うので、なるべく負担をかけないようにしたいと思い、出来れば本委員会の委員の中から部会への参加をお願いしたい。

○委員：

部会の開催頻度や時間はどの程度を予定しているのか。

○事務局：

開催頻度に関しては、進捗状況等、必要に応じて回数は前後する可能性はあるが、資料-1の9ページにあるように本年度2~3回程度を予定している。

○委員：

全くの素人でも構わなければ、参加したいと思う。

(3) その他

○事務局：

配布資料の中にある9月5日（月曜日）開催の「第5回都市農地保全自治体フォーラム」のお知らせ。

最初にもお願いしたが、今年度の都市農業フォーラムの講師、パネラー、フォーラムの内容等についてご意見・ご提案がある方は10月14日（金曜日）までに事務局へお知らせ下さい。

○会長：

本年度は、時間の短い中いくつかの事業を行うので、委員の皆様からの知恵をお借りしながら、検討を進めていければと思う。本日はありがとうございました。